

# ひとを育てる活動

## 一山の子どもの中等教育を支えるミアソン寮

先の訪問ではしばらくぶりでミアソン寮も訪ねました。寮のあるマグロ山麓のミアソンは、中腹にあるアトモロックに行く時、道路状況が悪いと車から馬に乗り換えたりするベースキャンプ的存在の村です。

そのミアソンに1999年公立ハイスクールができ、翌年、アトモロックなど山の子どもたちも通わせたいと、CMIPから寮建設への協力要請が届きました。

アトモロック訪問に参加された会員による北海道新聞への投稿がきっかけで、札幌在住の中田さんからご協力申し出をいただき、2001年食堂棟を挟んで男女各1棟、計3棟が完成しました。遠いキアミヤラムアプス小卒業生も入寮したこともあり、多い時は30名以上、今年度も15名が共同生活し、近くの公立ハイスクール（通称ミアソン校）に通っています。

正午過ぎに私たちが到着した時、校名入体操着の子どもたちが昼食を用意して待っていてくれました。

短時間の訪問でしたが、支援者のカードと横浜の高齢者施設から預かった手作りリースを届けながら、寮生活の様子も聞けました。



ご病気と伺っていた中田さんに、帰国してすぐに写真報告をお届けしたところ、半年前に亡くなられたというご連絡を奥様からいただきました。

寮建設支援金は、若くして亡くなられたお嬢さんが残した貯金の使用方法として最適ということで頂き、「ヨシコ・ナカタ寮」と名付け、今もそのプレートが掲げられています。これからも山の子どもの中等教育拠点として大切に守っていきます。

## 元ミアソン寮生エドナの笑顔



2年間特別医療支援で支えたエドナ。ミアソン校に復学したものの、一昨年8月、中退、結婚の予定もあるという報告が届きました。アトモロックからの帰途、彼女の嫁ぎ先を訪ねました。精神疾患で治療中には見られなかった笑顔のエドナと元気な赤ちゃんに出会えました。

## ブラクール支援会員13名が支える チボリとマノボの子どもたちの現況

生徒数減少で政府補助が減り、中等部は仮閉鎖した住民組合運営のブラクール校について、PFPのニックさんから現況報告が届きました。

クリスマス休暇を終えた初等部の90名は、職業家庭科の一環として、毎朝、学校農園のドリアン、ランブタン等の果樹や野菜畑の手入れをし、特に6年生は、ハイスクール再開を待ちながら勉強も頑張っているそうです。教師4名の給与はアメリカのサンタクルス会の会員とHANDSの13名が支えています。なお、クリスマスにはHANDSからの寄附（1万ペソ/2.4万円）で、文具一式のギフトといつもより少しご馳走の給食で楽しく過ごしたそうです。

## CMIP 奨学生のクリスマス



大きな袋を抱えたハイスクール生

HANDSからのプレゼント（2万ペソ/4.8万円）の一部はカレッジ奨学生用パソコン補助に、残りは文具一式になりました。地元教会からは、古着の寄付があったそうです。

## ピラーンの大学卒業生近況

### <ジミーは合格、チェルリンは再挑戦>

前号で、教師国家試験挑戦と伝えたジミーと、チェルリン。CMIP事務局で結果を聞きました。合格者リストにはジミーの名前だけで、チェルリンはなかったとのことでした。

昨年は公立教師の給与がさらに上がり、CMIPの教師給与との格差は3倍以上になりました。十分な収入を得て家族親族を助け、かつ、地元の村でピラーンの子どもの教育にあたることのできる公立教師は、今やカレッジ奨学生、卒業生の共通のゴールです。CMIP最辺境のナブル校教師チェルリンの挑戦は続きます。

### <スヌーリアは当選、ボニファシオは無念>

卒業生二人が挑戦したバランガイ議員（村会議員）選挙、地域での実績に差が出たのか、こちらも明暗が分かれました。ボニファシオの方は、専門の農業技術を生かし、当面は住民組織リーダーとしてアグロフォレストリー事業指導に当たる予定です。（関連記事P5）